

府中市生涯学習審議会（平成29年度第5回）会議録

1 日 時 平成29年12月18日（月）午後3時～5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員12人

大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、中西裕子委員、長畑誠委員、西原珠四委員、三宅昭委員、岩久保早苗委員、北島章雄委員、中村洋子委員は欠席。

（2）職員6名

五味田文化スポーツ部長、沼尻文化スポーツ部次長、古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

（1）配布資料の確認

資料1 府中市生涯学習審議会（平成29年度第4回）会議録（案）

資料2 平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会
配布資料（抜粋）

資料3 平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・研修会配布資料

資料4 第49回市政世論調査（抜粋）

資料5 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査（案）...事前に送付済み

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会について

（事務局） 資料2は、10月28日（土）に今年度の第5ブロック幹事市の三鷹市で開催された研修会資料の抜粋となる。当日は府中市から7名の方に出席していただいた。皆様から報告や感想などいただければと思う。

（副会長） 三鷹市の「市町村の生涯学習の展望」という形で平成29年度の社会教育委員連絡協議会が行われた。まず私から感想を述べさせていただくが、非常に良い研修会であった。とてもためになるお話を伺ったと思っている。

（委員） 出席が小金井市、調布市、武蔵野市、狛江市、三鷹市、府中市で、どこの

市も大体6名から10名弱だった。三鷹市の市長が話をした後、施設の見学があった。それから、いただいた資料2の「市町村の生涯学習の展望」という講演があったが、生涯学習についての概要をさらえるような内容ですごくためになった。次回の研修会は府中市で開催するため、府中市で開催したらどうなるのかということを考えながら聞いていたが、新しくできたプラッツを紹介するのも良いのではないかと考えていた。すごく工夫をしながらいろいろなことを進めていきたいという気持ちを三鷹市長が話していて、とても前向きな感じであると思った。府中市もいろいろ新しいことやっているので、市長に来ていただき、府中市はこんな事をやっていると呼びかけるといいのではないかと考えた。非常に面白い研修会だった。

(委員) 講演は、生涯学習についてよく整理されていて参考になるところが結構あった。その後、新しい設備・施設を見学させていただいたが、なかなか立派な設備だった。府中市はいろいろな良い設備があると思うが、点在している。三鷹市は一か所に全部まとまっている。

(委員) 講師の話は、私たちがこれからいろいろなことを考えるにあたって参考になったと思う。

(委員) 初めて参加したが、講師の話は大変マクロ的で、方向づけとして参考になったと思う。後は、各市の課題があまりよく見えないということが実情ではないかと思った。そういった点では、もう少しそういうところを各市が発表してほしいという感想を持った。

(会長) 消防団の施設がすごかった。講師の話は総論から各論まで全部お話されたような形で、立派な講演だった。

(4)平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

(副会長) 平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会が開催された。「子どももおとなも主体的に学び参加するまちづくりをめざして」というテーマで研修会は行われた。各市町村で開催されている、第1から第5ブロックの研修会の内容がブロックごとに発表された。まず第1ブロックの報告は、「地域や学校が連携した、子どももおとなも参加するイベントづくり」ということについて、活動事例、情報交換会を含めて発表していた。第2ブロックは、「豊かな地域に必要なこと～地域のつながりをめざして～」ということでワークショップを実施し、この議題について検討した結果が資料として出ているが、面白い話が聞けたと思った。第3ブロックは、「未知の分野を学ぶとともに、地域の過去を知ることにより、広く社会教育の推進に資する」ということで講演会と見学会を実施した。面白そうな演題だったので紹介するが、「星空散歩～ヒマラヤ8,000m峰で眺めた満点の星～」ということで、講演会が行われた。日野市市民の森ふれあいホールという施設が、広

い所に建っている。一度行ってみると面白いと思う。第4ブロックは小平市で行われたが、「小平市なかまちテラス」というガラス張りできている施設がある。照明が面白く、外から見ると七色の光ではないが面白い構造をしている建物である。「子どもおとなも主体的に学び参加するまちづくりをめざして」というテーマで発表があった。第5ブロックは三鷹市の生涯学習センターも入っている三鷹中央防災公園・元気創造プラザにて、「市町村における生涯学習の展望」をテーマに講演会と施設見学を行った。参加されていない皆さんも、もし三鷹市に行く機会があったら一度見学されると面白いと思う。

(委員) 各ブロックから報告があった。どのグループもいろいろな新しいテーマを探し出して一生懸命やっているという感じがした。「江戸の生涯学習」というテーマで講演もあった。内容も面白く、江戸時代もそんなことがあったのかというような話があった。

(委員) 初めて参加させていただいた。府中市でブロック研修会を開催するときの講演内容をきちんと考えなければと思った。

(会長) 伊能忠敬は数学や算数に非常に秀でて生涯学習をやっていた人としてよく取り上げられる。50歳にして自分のお金を使って自分のやりたいことをやり、日本の地図を完成させたというのが一般的な意見。講師を選ぶのは本当に難しく、一種のエンターテインメントと勉強会とを兼ねるといった講師の選択は非常に難しいと感じた。

3 審議事項

(1) 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査(案)の最終確認

(事務局) アンケートの前に、まず資料4をご覧ください。第49回市政世論調査(抜粋)であるが、市では毎年、市政に対する意見・要望を聞き、諸施策に対する市民の皆様の考えを把握することにより、今後の市政運営の参考にさせていただくことを目的として、市政世論調査を実施している。本日お配りしたのは、今年の5月から7月にかけて、市内の20歳以上の1,500人を対象に行った市政世論調査について、12月1日に結果が公表された一部を抜粋したものである。いくつか調査項目がある中で、「生涯学習への取組みについて」ということで、今年度アンケートを実施するにあたり、事前の意向調査という意味合いで、4問ほど設問を設置した。ここで結果がまとまったので、その内容について一部報告させていただく。247ページをご覧ください。こちらで『「学び返し」という言葉を知っているか』という質問をしているが、73.1%の人が言葉も意味も知らないと答えており、「学び返し」という言葉が浸透していない結果が出ている。これから実施する「府中市の生涯学習に関する市民アンケート」でも、同様の質問を行う予定だが、市政世論調査では、そこから掘り下げた質問までできていないため、「学び返し」を始めとした様々な質問を設け、生涯学習推進計画に反映させていきたいと思っている。

次に事前にお送りした資料5「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査（案）」をご覧いただきたい。こちらについては、前回の審議会で皆様からいただいたご意見を踏まえながら、事務局で校正したものである。校正内容について説明をさせていただく。表紙に付けたA4用紙の「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査ご協力をお願い（案）」については、前回配布していなかったもので、アンケートと一緒に送付する案内文となっている。前回ご意見をいただいたアンケートの実施目的や活用方法を説明したもので、文化芸術推進計画の案内文を参考に作成した。

続いてアンケート調査についてだが、項目ごとに分類しており、1ページ目が「あなた自身についておうかがいします」と「生涯学習の現状について」、5ページ目が「府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について」、6ページ目が「生涯学習の成果について」、7ページ目が「学び返しについて」、10ページ目が「自由意見」となっている。前回お配りした物はA3用紙で横に羅列していたが、今回は実際に市民の方にお送りする形をイメージして作成した。まずタイトルだが、前は「生涯学習に関する市民アンケート」となっていたが、「府中市の調査なので『府中市の』という文言をつけた方が良いのではないか」という意見を受け、事務局としても何も付けないと抽象的であると考えたため、「府中市の」という言葉を付けさせていただいた。また、アンケートの後に「調査」という文言を追加している。

「（1）あなたの性別」という設問について、「LGBTの方に配慮して、『回答したくない』という選択肢を加えても良いのではないか」というご意見をいただき、市政世論調査等を確認したところ、欄は作っていないが、回答しない方もいるため、集計の時に「無回答」という形で報告をしている。それに準じた形で、「男性・女性」以外の選択肢は設けない形とさせていただいた。

「（2）あなたの年齢」という設問について、対象者を16歳以上と提案していたが、協議の結果18歳以上となったので、記載方法も「10代～20代」に変更した。また、「キ.80代以上」としていたが、世論調査と併せて「80歳以上」という表記に変更した。

「（3）あなたのご職業」という設問で、「社会人」という項目を「『有職者』にした方が良い」という意見と「パート・アルバイトを除く時はカッコ書きで対応した方が良い」というご意見をいただいたので、「有職(パート・アルバイトを除く)」と「有職(パート・アルバイト)」に変更した。また、「専業主婦・主夫」という項目を、他の調査を参考にして「家事専業」という名称に変更した。次に、「生涯学習の現状について」だが、「ここでは生涯学習を始めたきっかけや経験などの現状についておうかがいします。」という説明文を追加し、どういう内容を聞くかという点を分かりやすいようにした。その後の項目も同様の対応をしている。問1は、用語解説として上に「生涯学習」と「学び返し」の説明があったが、「生涯学習が何か分からないので、問と用語解説を合わせた設問が良いのではないか」という意

見を反映し、用語解説という形ではなく問1の所で生涯学習の説明を入れて、説明を踏まえて回答してもらおうという形とした。生涯学習の定義については、「もう少し柔らかくした方が良い」や「具体的にどういうものかイメージしてもらった方が良い」、「用語解説に学校教育と家庭教育を含めると分かりにくい」という意見があった。こちらは文部科学白書から引用していた生涯学習の説明だったが、教育基本法などを参考にしながらもう少し分かりやすく変更し、「生涯学習とは1人1人が生涯の充実の為に、年齢に関係なく、あらゆる機会と場所において自主的・自発的に学ぶことです。」とした。そして、その下の方に「講座を受講する」や「サークル活動に参加する」というように、もう少し分かりやすくするために具体例を入れさせていただいた。「生涯学習という言葉聞いたことがありますか」という質問だったが、「『聞いたことがない』と答えた人が次の設問に答えにくい」や「この質問は無くて良い」、「『生涯学習に興味がありますか』という質問でも良い」という意見を受け、「生涯学習という言葉を知っていましたか」に変更した。それに伴い、選択肢のイで「聞いたことはあるが意味は知らなかった」を追加した。

2ページの問2の選択肢ク「自然・環境関係」について、具体例を「ごみ拾い、リサイクルなど」としていたが、「ごみ拾い」をもう少し広い範囲にして「清掃活動」に変更している。問3のところに「問2で『サ.していない』以外を回答した方」と書いてあるが、前回「表現方法については、設問文の中でア～サという記号でのみ書いてある所があるので文字で書いた方が分かりやすい」という意見があったので、分かりやすいように全ての設問の上に対象者を入れた。全員答える場合は「すべての方」、選んでいる場合は「『サ.していない』と回答した方」というふうに記号と文字を両方入れて分かりやすくしている。問3の選択肢の中で「『ふちゅうカレッジ出前講座』という言葉が急に出てきて、その説明がない」という意見があったので、内容を説明して周知を行った。ウ「サークル活動など」については、前回「趣味のサークル活動」となっていたが、審議会後に委員さんからご意見をいただき、趣味だけでなく、学習サークルやボランティアサークルもあるので、趣味をとって「サークル活動」にしたかどうかということで、ご提案どおり変更した。

3ページの問4について選択肢のカとキの頭に「学び返しとして」という言葉を付けていたが、「学び返し」について、まだここまで説明をしていないということもあり、事務局で削除した。問5は新しく追加した設問になる。「生涯学習に参加した理由を聞いた方が良い」という意見があったので、始めたきっかけということで設けさせていただいた。問6は、選択肢の文字数の多いものを下の方に移動させ、並び順を変更した。

4ページの問8「生涯学習をしていない理由は何ですか」の選択肢「エ.必要な情報がなかなか入手できない」を「入手が難しい」に事務局で変更した。選択肢「カ.特に必要と考えていない」は前回先頭にあったが、否定的な回答の選択肢が先頭になるのは望ましくないのので、後半の「キ.その他」の前に移動させた。また、前回選択肢で「特に理由はない」という項目があったが、こちらも削除している。問9の

選択肢の「友人・知人からの紹介」を、審議会後に「知人からの紹介だとハードルが上がるので、『紹介』ではなく『情報』にしたらどうか」という意見を受け、「友人・知人からの情報」に変更した。

5ページの「生涯学習の施策に対する今後の意向について」は、「生涯学習の成果」の次にあったが、「生涯学習の現状の次に意向があってその後に成果、そして学び返しと繋いだ方が良い」という意見があったので、その順番に変更した。また、タイトルの頭に「府中市の」と付けた。問10は、「今後、生涯学習をしてみたいと思いますか」だったが、「『府中市が行っている生涯学習事業に参加したことがありますか』という項目があった方が良い」というご意見があり、この項目では、府中市の生涯学習の施策に対して聞きたいので設問を変更した。問11は生涯学習センターの講座の分野や市の出前講座の分野などを参考にして、より選びやすい、分かりやすいように、選択肢に「教養」「生活実技」、「子育て」、「防犯」、「国際交流」、「まちづくり」を追加した。問12は、新規で追加した設問である。「生涯学習をしたいと思わない」と回答した人に「『なぜか』、『どういう事をしたのか』聞いた方が良い」や「今後の意向についての設問を増やした方が良い」、「今後の意向について自由記述を増やした方が良い」という意見をいただいたので、まとめて聞く設問を追加し、参加したくない人へのフォローと対策のための設問とした。問13の設問で「市民の『生涯学習』をもっと盛んに」としていたが、分かりやすいように生涯学習「活動」という文言を入れた。そして(複数回答)とあるが、「可」が抜けているという意見があり「可」を追加している。また、選択肢を事務局で詳しい表記に変更した。

6ページの問14「市の『生涯学習』に関する情報で望むものは何ですか」という設問は、「生涯学習の現状について」の方の設問としていたが、内容が「府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向」に入ると判断し、事務局で変更した。選択肢の「講師や指導者の斡旋情報」としていたが、「講師や指導者の登録情報」と変更した。問15の設問は、「『生涯学習』に関する」と始まっていたが、ここは市のという意味で聞いているので、冒頭に「市の」と入れさせた。選択肢「カ.町会・自治会の回覧」は、「問9で市の生涯学習の情報を得る手段の選択肢の中に『町会・自治会の回覧』が入っているが、ここで抜けているのはどうか」という意見があり、町会・自治会の回覧も市の情報手段なので追加した。

続いて7ページの問18で、選択肢「エ.発表の機会の充実」について、発表だけでは幅が狭く分かりにくいので、「活動報告・発表の機会の充実」とし、より具体的な表現に変更した。問20は「学び返し」の用語解説が冒頭にあったが、設問の中に一緒に組み込む形に変更している。そして、「学び返し」が府中市の審議会で提言された市独自の表現であるという説明を追加した。また、「学び返し」の例をもう少し具体的にした。設問の中に「学び返し」の説明を入れたので、「知っていましたか」、「知っていた」、「知らなかった」という過去形の選択肢に変更した。

8ページの問21は、「『学び返し』を行ったことがありますか」だったが、生

生涯学習の設問では「『生涯学習』をしたことがありますか」という表現を使用しているため、文言の統一で「行った」から「した」に変更した。問23の設問は、「『学び返し』を行ったきっかけは何ですか」だったが、「行った」を「した」に変更したことに伴い、「したことがある」と回答した人が「したきっかけ」より「始めたきっかけ」の方が分かりやすいと考え、事務局で変更した。この設問は複数回答可であるとの意見をいただき、「複数回答可」という文言を追加した。問24の選択肢、「イ時間が取れない」を事務局で追加した。さらに「方法が分からない」という選択肢をエの「教え方が分からない」という文言に変更した。

9ページの間25は、「学び返しを行ってみたい」と回答した方だけの設問で、「どのような学び返しを行ってみたいですか」としていたが、「学び返しを知らないと答えた方のフォローの設問があった方が良い」という意見を受け、全ての方が答えられるような設問に変更し、「今後どのような学び返しであればしてみたいと思いますか」という自由記述にした。問26は、「府中市の魅力を活かした学び返して、あなたがイメージするものは何ですか」だったが、府中市の魅力といっても漠然としていて難しいと思い、事務局で具体例を記載した。併せて「どのような学び返しができると思いますか」に変更した。問27は、「サポーター制度を利用したことがありますか」だったが、「選択肢を学び返しの設問と同じように、利用したことがある・知っているが利用したことがない・知らないにした方が良い」という意見があり、意見を反映した。また、設問に「知っていますか」と「利用したことがありますか」という2つの聞き方をして、認知と利用の両方を加味した質問に変更した。問28は、上記の間27の質問生涯学習サポーターを利用する側への質問になったので、登録をしていただく側、「学び返し」の手段として登録して教える側の設問を事務局で追加した。以上で校正箇所の説明を終了する。

(会長) 全体的にこれは少しおかしいとか、少しペンディングだということなどはあったか。

(委員) 前回欠席したので、アンケートを郵送していただき、前回の議事録を読まずしてアンケートを解いた。最初に「『サ・していない』以外を回答した方」とあるが、一般的なアンケートをあまりやらない方は「何とか以外を回答した方」という表現わかりづらいのではないかと思う。むしろ「『ア～コ』を回答した方」というように、後ろの「何々と回答した方」に合わせて表現した方が間違いはないと思った。そして、後で前回の議事録を見て、「学び返し」が付いている理由がとてよく分かったが、最初に読まないでアンケートをしていった場合には、どうしていきなり「学び返し」が出てくるのか、唐突に感じるのではないかと思ったので、アンケートの協力依頼の文章に少し「学び返し」についても記載してあると唐突と思われなくて済むと思った。

(会長) 「生涯学習」と並べて「学び返し」も少し解説した方が良いということか。

(委員) その方がご意見をいただけるのではないかと思った。

(会長) 他にいかがか。

- (委員) 前回提案された内容に比べると格段に整理された印象を受けた。基本的には、前半の意識調査、後半の府中市の施策に関するアンケートの2つに分けられると思うが、これは分けて議論した方が良いのではないか。
- (会長) そのように検討していくが、他に総合的に何かあるか。
- (委員) ヘッドレター「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査ご協力をお願い」の文章が少し固いので、もう少し易しい表現に修正した方が良い。例えば、「一人一人の人生が豊かになる、あるいは学習を通して繋がりが生まれるということを目指して府中市は生涯学習を行っています。このことについて市民のご意見をお聞かせください」といったような易しい日本語にした方が良いと思う。もう少し平易にした方がもっと伝わるのではないか。そして「意見を聞かせてください」という方が良いのではないか。「生涯学習とは」という定義が1ページにあり、この内容で合っていると思うが、やはり少し表現が固いのではないかと思う。愛知県豊橋市が作っているチラシを見ると、生涯学習の定義で「誰でもいつでもどこでも何でも生涯を通じて自由に学ぶ。それが生涯学習です」という表現になっている。このような表現にした方が胸にすっと来るのではないか。
- (会長) 今のご意見に関して皆様どう思うか。豊橋市のように直していった方が良いと考えるか。
- (委員) 文部科学省がホームページに出している文言が豊橋市と同様である。
- (会長) 役所はどうしても誤解を生む可能性があるために平易にできない。
- (委員) それはそうだと思う。
- (委員) 私も同感で、これを受け取った時にはっきり言って読む気がしない。どうしてかということ、このアンケート自体私たちにどんな得があるのかというのがこれだと分かりづらい。もう少し強調した方がよいと思う。例えば4行目の「今後の市民の皆様の生涯学習の支援の更なる充実を目指して」というのが強調すべき箇所だが、計画を進めているという文章の中に1行あっても埋もれてしまう。「今、市は今後の市民の皆様の生涯学習の支援の更なる充実を目指しているところです。つきましてはこういうことをやっているのでアンケートに教えてください」という表現の方がやってくれていると感じる。
- (会長) さらにしたいと思うということか。
- (委員) そう思う。これを受けたからといって、どうして私たちがこれに協力しなければならないのかというのが読み進めてこないと分からない。せっかく良いこと言っているのに、これもう少し強調して上のほうに入れて、「つきましてはこういう事を今市が進めているので」とするといいと思う。一番大事なものは目的なので、これを文章に埋もれさせない方がよいと思う。
- (会長) そういう意見でよろしいか。事務局はいかがか。
- (事務局) 市としては、やはり少しでも経緯を説明していくというのが通例となっている。こういった流れで説明させていただき、そして計画を更新するという形態的なものが多いこともあり、生涯学習推進計画についてもこのような形にさせ

ていただいたが、いただいた意見を踏まえて検討させていただきたい。

(委員) 1月13日に国際交流サロンが一橋大学の先生にわかりやすい日本語の指導を受ける。例えばアンケートをする時に府中市から東京外国語大学に見てもらえばいいと思う。易しい日本語の先生もいるので、もう少しアンケートの質問の仕方も胸にすっと来るようになると思う。府中市から申し入れたら協力してくれると思う。

(委員) 易しい日本語に対する理解については、日本人に対する日本語ではなく、海外から来られた方に対する易しい日本語というコンセプトである。このアンケートは日本人に対するアンケートだと思うので、そういう意味で易しい日本語は少し違うのではないかと思う。

(委員) それはその通りだと思うが、やはり豊橋市と比べると役所言葉で表記が難しい。そういう角度が重要なのではないかと思う。外国人だったらこれでは全然わからないので、もっとわかりやすくしなくてはいけない。

(会長) なるべく平易な言葉で、何のためになるのかという事も少し入れていただければありがたい。

(委員) これは純粹な興味だが、世論調査を受けた方とこのアンケートを受ける方が重なるのかと思った。同じ質問があるので、たまたま二つとも回答した方は二回問題に回答することになると思った。

(会長) 私はこれで良いと思う。同じ人であるかどうか確認しにくい。しかもアトランダムに選ぶので、多分同じ人は選ばれないと思う。むしろ同じ人が選ばれて前のアンケートとこのアンケートで意見が違っていたら、それはどうしてだろうとこちらも考えないといけない。選んでいる1,500人というのは、いろいろな数値からアトランダムに選んだりしていくので、同じものが出てくることはまずない。

(事務局) 今の質問についてだが、実際世論調査については、20歳以上の男女の個人で1,500名、そして今回の調査は18歳以上の方から2,000名という形になる。場合によっては対象者が重なることもあると考えている。

(委員) 全体的な項目の中で記述する部分が結構多いように見受けられたが、事務局の方で整理するときはどうするのか。特定の意見があった時に対応できるのかと感じた。

(会長) 記述式というのは、長くなると文章の最初と最後の意見が少し違うことになる可能性があるので、「箇条書きで簡潔に述べてください」という文言を入れた方が良いと思う。

(委員) 今までのアンケートの中でこういうものはあったのか。分析して、どのように反映させるのか。

(会長) 分析する時に大変だと思う。

(委員) これらを分析して反映させるのは大変そうなので、どうなのかと感じた。

(会長) 箇条書きだったら少しはできやすいと思う。この記述式に「自由記述」とい

う括弧が随分あるが、これについて何かご意見があれば。

(委員) まとめる方が大変なのではないかと思う。書くのが大変な人は多分書かないと思う。

(委員) 自由記述の内容は様々だと思うが、検出キーワードがいくつあるかという分析は可能である。やはり今後10年間の施策を考えるにあたっては、どんなことが考えられているのかというのが参考になると思う。書く方は負担だと思うが、私たちにとってはありがたいのではないのかと思う。

(委員) 自由記述をまとめるときに、項目等にしてしまってもいいのではないか。そのようなまとめ方をすれば、比較的単語をベースとしたまとまりになるのではないか。

(委員) 自由記述はあった方が良く思う。なぜかということ、例えば問2と問11の設問で全部網羅していると言われると必ずしもそうではない。1つ気になっていて、加えたほうがいいのではないかとまっていることがある。ここには、健康や教養、スポーツといった方面のものがいろいろ書いてあるが、職業上必要な知識という面があまりない。今、国が「学び直し」をやっているが、少子化の中で働くために生涯学習をどう活かしていくのかという視点、これがこれからかなり重要なテーマになってくると思う。これからの人は働いていかないと将来が不安である。働くためにどうするか、生涯学習という立場からどう支援していくかということの一つの重要なアイテムとして組み込む必要があるのではないか。問4で「仕事や就活の上で活かしている」という項目がある。生涯学習を仕事の面で活かしているという意識がここに充分に入っているが、問2と問11にも、その視点から回答する項目が1つあっても良いのではないか。

(委員) 賛成である。問2でそれが抜けているのではないかと思う。

(会長) どういう文面にすればいいか。

(委員) 「職務上必要な知識、技能」というような形にすればいいと思う。国は「学び直し」と言っているが、府中では「学び返し」をやっている。やることは同じようなことだが、目的が少し違う。国は、仕事をしてもらうにそういうことをやってもらいたい。府中市の場合は、「学び返し」というのは仕事のためではない。自分の豊かな生活、これからの生活のためにどうやっていくか、あるいはそれをいかに地域に還元していくかということで仕事ではない。どちらかということボランティア的な要素の方が強い。

(会長) そういう意味では、コンピューターがあっても良いと思う。生涯学習センターでコンピューターを習いたいという人が大勢いる。コンピューターをやっておけばIT産業にも職業にも通じていくかもしれない。

(委員) 「パソコン・インターネットに関すること」という項目もある。これは確かに重要であり、これがないと仕事にならない。

(委員) 仕事上必要な知識という形で入れた方が良い。

(委員) 問4の選択肢で「仕事や就職に活かしている」や「資格取得に活かしている」

というものが入っている。それを例えば問11の生涯学習の事業に入れるということか。

(委員) 基本的には問2だと思う。

(委員) 国の政策にもびったり合っている。

(会長) 今のご意見に対していかがか。

(委員) 問11と問2は連立した方が良い気がする。微妙に違う表現になっている。例えば防災に関する事は問2に書いてあるが、防犯に関する事はない。両方きちんと合わせた方が良いのではないか。

(委員) 先ほどの意見についてだが、具体的にはどういう表現がいいと考えるか。

(委員) 例えば、問2で言えば「職務上必要な知識」というような項目になると考える。

(委員) そして、パソコン・インターネット等という形になるということか。

(委員) パソコンなどもその一部に考えられる。

(会長) そうすると専門学校や大学のお株を奪ってしまうという感じがあるのではないか。その周辺でどうするのかというのが生涯学習のような気がする。

(委員) 例えば仕事を今までやっていたという人が、いろいろな技術を持っていて、それをどうするかということではない。そういう人たちは第2の人生は必ずしも同じ事を希望していない。自分はこういう事をやっていたが、定年になったらこういうことをやりたいというのを皆思っている。例えば、田舎で農業に従事したいという人もいれば、工芸をやりたいという人もいる。違うことを考えている人の方が多い。仕事上やったことで生計を立てていくというのは、そんなに簡単ではない。むしろ、通用しない時代になってきている。要するにグローバル化の時代に競争が激しいばかりで、高齢者が技術で争うというのは非常に難しい。若い人がそういう専門性を有してやればいい。そして、ある程度年齢のいった人たちは違うものをトライしてみて、その中で自分の豊かな人生を計画していく。そういう人たちの為にサポートする。例えば、田舎暮らしをしたい、農業がしたいということであれば、農業関係の人に講義をしていただき送り出すなどいろいろな分野があると思う。私の中での生涯学習は、そういうものをサポートしていくというイメージである。高齢者は体力も落ちてくるので、若者のようにフルに働くことは難しいが、1週間または3日働いて月に10万円の収入を得ることができれば皆豊かになる。そうするとスポーツをやろうとか、いろいろな勉強をしようとか、余裕が出てくる。そういう余裕がない人がこれからどんどん増えてくるので、その人たちが少しだけ働いて、収入を得ることにより、残りの時間を余暇として過ごしていただく。何らかの形で少し稼げるような可能性というのを生涯学習でサポートしていくというのが必要だと考える。

(会長) 「学び返し」よりも「学び直し」が必要だということか。

(委員) 国は「学び直し」である。教えるということではなく、「学び直し」のような

ものが必要だと思う。

(事務局) まず問2について、文言は事務局の方で考えさせていただくが、「仕事上の必要な知識」という項目を検討させていただきたい。

問2の防犯関係と問11がリンクしていないということについては、質問として別の枠組みなので、必ずしも一致させるというわけではないが、防犯という形で調整したい。また、最終的なアンケートについては、正副会長に一任させていただきたい。

(会長) テーマを一つずつやっていきたいと思う。「生涯学習の現状について」というところで、何かご意見はあるか。

(委員) 体裁について少し分かりづらい。私は「あなた様ご自身についてお伺いします」の方が良いと思うが、ここであなた自身のことについて伺うと言っているので、「あなたの性別」「あなたの年齢」の「あなた」は要らない。こういう用語重複はなるべく避けた方が良いと思う。あと、選択肢の並びが縦書きと横書きが混在しているので、アンケートする方から見れば全部統一して縦書きで良いのではないか。例えば(2)はアイウエが横書きになっているが、縦書きでアイウエと書いて統一してもらった方が良いと思う。

(会長) 横ではなく縦書きにアイウエを並べた方が良いということか。

(委員) その方がいいと思う。他はすごく綺麗にできていて、フォントも変えてあるし、所々ふちゅこまのイラストもあって可愛いが、アンケートの形式としては少し見にくい。

(会長) それについては、後ほど検討する。次の「生涯学習の現状について」に移る。先ほど問1の「生涯学習とは」という文章が難しすぎるので、もう少し簡潔に解説したらどうかというご提案があった。それ以外に問9まで続くこのテーマについていかがか。

(委員) 生涯学習の定義の中には、地域でボランティア活動に参加するというように具体的にやることも入っている。そうすると問3で、ボランティア活動をしている人たちが「どのような方法でしたことがありますか」という質問に答えられなくなってしまうと思う。答えるとしたらウシかない。サークル活動だと若干限られているので、NPO活動とか地域の自治会の活動とかに参加するというのも、もしかしたらここに入るのかと思ったがいかがか。

(会長) 私は入ると思う。

(委員) こういう項目があった方が答えやすいと思った。自分がNPO関係者なのでそこが気になってしまった。

(会長) それに関連するかどうか分からないが、最初の生涯学習の説明で、「あらゆる機会と場所において」とあるが、これは施設を使わなくても自宅でやることも入るということだと思う。そして、問3の選択肢に「自宅での学習活動」で書籍とあるが、1人で読書をするのも当てはまるのか。

(委員) 設問の立て方を変えた方がいいのではないか。例えば、問1の「生涯学習と

という言葉を知っていましたか。」という設問を、「生涯学習という言葉をご存知ですか。」というような柔らかい表現にすることが必要である。そして次の問2の「どのような生涯学習をしたことがありますか。」では自宅の勉強なども入っているので、「どのような生涯学習に参加されたことがありますか。」という方が良いのではないか。問3「どのような方法で生涯学習をしたことがありますか。」も、「どのような方法で生涯学習活動をしましたか」とした方が良いのではないか。

(会長) 1つ1つ整理をしていきたいと思う。最初の意見について、問3の選択肢のサークル活動にNPO活動を入れても良いか。

(委員) それで構わない。

(会長) 1人読書はいかがか。学習活動で書籍・テレビ・ラジオを見ることを生涯学習に含めるのか。

(委員) NHKのラジオ講座というのもあると思う。

(委員) 書籍も難しい本を読んでいたら、当てはまるのではないか。

(委員) 前半は生涯学習について、みなさんがどのように考えていますかという質問になるので良いのではないか。

(会長) それでは、2つ目のテーマ「生涯学習の現状」はよいか。

(委員) このアンケートに言えるかどうか分からないが、アンケート項目の回答数に制限を加えないと、回答者の意識によって回答項目数に偏りが生じる可能性があるという指摘がある。従って、回答項目の数を制限した方がよい。アンケートの際、生涯学習の経験について指向性を得たいという目的からしてもアンケートの際に回答数を制限した方がよいと思う。項目数を制限することで、もっとも興味のある項目や、時間をもっと割いている項目など、回答者による判断が意識にのぼり、結果としてトレンドが得られる可能性は高い。複数回答は無制限からある程度の数の制限を設けた方が、集計上は結果としては良いと思う。

(会長) その通りだと思うが、具体的には書籍などを外すということか。

(委員) あっても良いが、「主なものを3つお選びください」というような表記があるといいと思う。

(会長) 3つ以上だったら大変な数になると思うので、3つ以内が良いと思う。

(委員) このくらいの選択肢の数であれば、3つか4つくらいに制限するのが良いと思う。

(会長) その方がすっきりする。他になければ次は5ページ「府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について」というテーマに移る。ここは、職務上必要な知識などの項目があった方がよいという意見が先ほど出た。ここも複数回答なので、3つまで選択可能と限定した方が良いか。そしてその上で、職務上必要な知識がこの選択肢の中に入るということでいいか。

(事務局) 「職務上必要な知識」というような選択肢を入れるかどうかということが

1つと、この設問の選択肢は単語になっているので、それを含めた必要性をご判断いただきたい。

- (会長) 「職務上の知識」で単語になっているのではないか。
- (委員) 職務上という少し難しい。サッカーの審判員など、最初はボランティアだが、ある程度勉強して3級くらいまで取れば、収入を得て審判ができる。最初はボランティアでやっている人でもしっかりと勉強すれば、きちんとした収入を得て、自分の好きなことができる。そのようなことを聞いて、そういうことがどんどんできるようになったら良いと思った。だとしたら、職業上というイメージではないので、どのように聞いたらいいか考えている。
- (会長) 趣味を活かして、収入を得て社会的にも信用が出てくるというような勉強である。おっしゃる通り、職務上という表現は良くないかも分からない。どのように表現すればいいか。やりたいことをやって収入を得て社会的に信用ができるような、そういう分野で活躍したいという考えには賛成である。
- (委員) 一生懸命勉強すれば、いわゆる引退した後でも、そういう分野であればきちんとした仕事になると思う。
- (会長) 学校の領分を侵してしまうので、ここに勉強という項目は入れられない。
- (委員) 問11は分野になっている。これらは全部、頑張れば収入になるというものがいっぱいあると思う。だから、別にここはこのままで良いと思う。それを本当に活かして、自分がいずれ稼げるようになりたいという人も、自分がなりたいと思っている分野に丸を付けてくれるので良いと思ったが、いかがか。先程の話で考えるとすれば、園芸とか農業というのを入れるという形になると思った。
- (会長) 具体的には文学・歴史・語学となっているが、教養の中に何かを大きく入れた方が良いと思うか。文部科学省は、割と道徳や社会的道徳を期待している。
- (委員) 例えば「職業・資格」というのも良いと思う。
- (委員) 生涯学習センターでやっている講座をイメージしていたが、資格の授業などをやっていたので「資格再就職」のような分野でも良いと思う。生活実技の中にパソコン・料理・楽器演奏が入っているので、資格は生活実技に入っているのかもしれないが、仕事をするためのもののような一分野を入れるというのはいかがか。「資格・就職」といような感じのものを入れたら良いのではないか。
- (委員) 「就職・資格」でいいのではないか。
- (委員) 次のテーマの「生涯学習の成果について」の問17の「どのように活かすのか」の中に、自身の生活や新しい様態に参入するなどがあるので、学習の深さを質問する問17に入れるのが良いのではないか。何をするのかという問11と、どこまでやるのかという選択肢を問17に入れこむ。教養レベルでとどめるのか、仕事までいくのかという分け方でもいいのではないか。

- (会長) この意見はいかがか。問16も自分以外のために活かすわけなので、活かすことに対して報酬と言うか、リワードがついてまわる。
- (委員) 少し先だが、問16・17は「べきである」という言い方よりも、「活かしたいと思いませんか」の方がいいと思う。「べき」と聞くのは、どちらかというとその人の倫理観を問いているような感じに思うので、少しでもそこは言い方を変えると良い。
- (会長) 「活かすべき」という表現ではなく、「活かしたい」という言葉の方が良い。
- (委員) 問17の選択肢には、日常生活、趣味サークル、地域活動とあるが、例えばNPO活動をやっている方は地域活動とは言えない場合がある。地域で活動している方も、広域的に活動している方もいると思うので、「地域活動・NPO活動を通じて」などにできないか。問17のウの地域活動だけだと地域に限定されてしまうので、「地域活動・社会活動またはNPO活動」というように入れて広げておいた方が良く思う。
- (委員) 地域活動等はいかがか。
- (委員) それでもかまわない。
- (会長) 社会活動の方が言葉としては良いと思う。
- (委員) 5ページの上の「市の生涯学習事業」というところに少し引っ掛かりを感じた。これは何をイメージして市の生涯学習事業と表現しているのかがわからなかった。つまり現在では、ほとんどの社会教育施設が指定管理者の運営になって、市の直轄事業というのはかなり限られたものしかなくなってしまっている。そういうものを恐らく含めているのだと思うが、いかがか。
- (事務局) 今の意見について、実際には市の方から指定管理者に指定している事業や指定管理者が自主事業として行っている事業もある。基本的には市の方から依頼し、それを受託して行う流れになっている。
- (委員) 事業ではなく活動という表記が良いのではないか。そうすれば、「市の生涯学習活動に参加したいと思いますか」という質問で良いと思う。事業というと、どんな事をやっているのかという疑問がわく。
- (会長) 「市が行う」ではなく、「市の生涯学習活動」で良い。
- (委員) 第2次生涯学習推進計画で市の重点事業として何を掲げているのかを、この審議会でも一回見直してみないといけないと思う。それに対するアンケートにはここではなっていない。だから、どういう表現にするのが良いのか。
- (会長) 「市が主催する」となると少しきついような印象がある。「市の生涯学習活動」くらいで良いと思う。
- (委員) 第2次生涯学習推進計画で推進しようと掲げた事業が、市民の皆様はどう受け取られているかという事を聞きたいのではないかという気がしたが、いかがか。
- (会長) 7ページの問18に初めてコーディネーターと出てくるが、初めてのの人に

は難しいのではないか。(世話人)というような補足を入れないと考えてしまうと思う。

(委員) 生涯学習ではファシリテーターと言っている。第2次生涯学習推進計画を参照していないと感じるアンケート内容が少し気になった。

(事務局) 7ページの間18のコーディネーターという表現についてだが、コーディネーターとは何かと回答者が疑問に思う可能性はある。その辺の表現については、もしご意見があればいただいて検討させていただきたい。

(委員) ここは、いわゆる横文字を使っていると認識して良いのか。

(会長) 難しい英語である。

(委員) 「活動の場を結ぶ人(コーディネーター)」はいかがか。活動の場を結ぶ人がコーディネーターというように説明しているので、(コーディネーター)という表記にすればいいと思う。

(会長) 検討させていただく。最後のテーマ「学び返しについて」に移る。「学び返し」について審議会で検討した時に、返すだけではなく、お互いに学び合うということも重要ではないか、あるいは先ほど話に出た「学び直し」というのも非常に重要なのではないかと思った。府中市は、学んだことを地域に返す「学び返し」強調しているが、お互いに交流し、お互いに学び合う、あるいは学び直すということも重要ではないかと思う。しかし、この言葉を尋ねているので、「学び返し」でいいか。

(委員) もし、この言葉について質問をするのであれば、最初の方が言ったように、ここでもっと詳しく説明をする必要があると思う。これを読んでいくと、生涯学習とは何だろうと思ひ、また最初に戻らないと、ここから先が分からないという感じがする。

(会長) 易しく、詳しく、分かりやすくする必要がある。私が1つ提案したいのは、8ページの間21の「学び返しをしたことがありますか」の選択肢が「ア したことがある」「イ したことがない」「ウ してみたい」となっているが、「エ してみたくない」という選択肢を入れてみたらどうか。そうすると、間21で「したことがある」「してみたい」と答えた方が間23で回答して、間24は「したことがない」「してみたくない」と回答した方が回答するとした方がはっきりするのではないかと思う。

(委員) 答える側としては、したことがあるかないかで分かれて、したことがない人の中で今度はしてみたいと思う人、してみたくない人に分かれている。となると、したことがない人はイに丸を付けて、なおかつウかエにも丸を付けることになってしまう気がして、混乱すると思う。本来なら、アとイがあって、イの人についてはしてみたいのか、してみたくないのかを改めて聞く必要があるのではないかと思う。

(委員) 設問が「学び返し」をしたことがあるかないかだけ聞いているので、アとイだけで良い。次に「学び返しをしてみたいと思いますか」として、「して

- みたい」「してみたくない」という設問になるのではないか。
- (会長) いらないということか。
- (委員) そうではなく、YES・NOの設問に3択があるのは混乱する原因になると思う。
- (委員) 問21は2択にして、したことがない人に対しては、新規の設問で、してみたいのか、みたくないのかを聞く方がいいと思う。
- (会長) 最後の自由意見については、「箇条書きで簡単にお書きください」と入れておいた方が後で分析しやすいと思うが、いかがか。事務局の方から意見があればお願いします。
- (事務局) 委員の皆様から貴重な意見をいただき、それを踏まえて正副会長と整理をするので、正副会長と事務局に一任という事でご了承いただきたい。
- (会長) アンケート調査の実施の予定と次の会議について事務局に説明をお願いします。
- (事務局) アンケートの今後のスケジュールについては、1月17日(水)に発送を予定している。無作為に抽出された18歳以上の市民2,000人に送付する。2月16日(金)を締め切りとし、約1か月間かけて回収を行う。次回は3月に審議会を開催させていただきたいと考えているが、その時にはアンケート結果の速報値を提示したいと思う。

4 その他

(1) 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会の概要検討

- (事務局) 前回もご案内したが、来年は府中市が幹事市で、10月27日(土)か11月17日(土)に、ル・シーニュ5階のバルトホールで研修会開催を予定している。詳細については、来年度当初に都市社連協の統一テーマが発表されてからとなるが、概ねどのようなことをしてみたいかというご意見を事前にいただければと思っている。10月の三鷹市の研修会でもあった通り、三鷹市は、講演と施設見学、懇親会だった。今までの流れだと、各市の事例発表を行ったり、グループ討議をしたりという方法もあるのでご検討いただきたい。

(2) 次回の開催について

候補日として3月19日(月)と3月23日(金)の午後3時からを提示して、予定を伺った。会場は同じく、府中駅北第2庁舎5階の会議室。欠席委員に確認をして事務局で調整し、改めて連絡することとなった。